

# エールを送る



## 教育随想

岡崎市教育委員会  
委員 田口 千代 氏

「春」という季節、子供たちは一年間過ごした仲間との別離の寂しさを感じながらも、新しい環境や出会いへの期待に胸を膨らませていることだろう。

私自身はここ岡崎市に生まれ育ち、小・中学校と「教育を受ける側」だったが、今は中学二年生の子をもつ親として、そして教育委員として、「教育に関わる側」である。

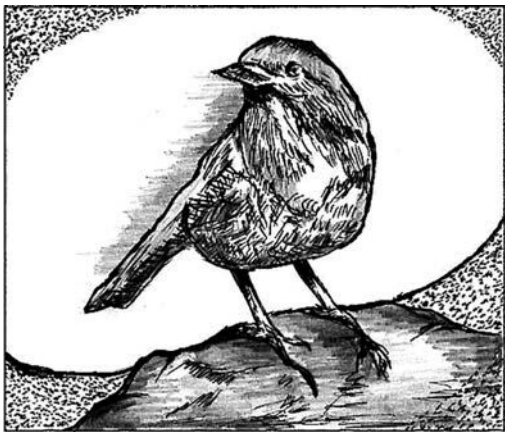
元号が平成に変わった年の四月に中学校に入学した世代である私は、自分が通っていた頃と今の学校が随分変わったなと感じることがある。中学三年生のとき、それまでは「男子は坊主、女子は肩まで」だった頭髪が自由化された。「靴下は三つ折り、折り目は三センチ」のルールなど、自分の娘を見ていると幻のように思えてくる。

中学時代、部活動も友人との遊びも全力で楽しんだ日々は、かけがえ

のない思い出である。今思えば先生方は、朝練・授業・夕方や休日の練習と、どれほどの時間を割き、愛情を注いでくださったのだらうかと、感謝と尊敬の気持ちが溢れてくる。先生が子供を思う気持ちは今も変わらないのだと、時折、訪問する学校の現場で感じている。

日本では長年、協調性・集団行動を重んじてきた印象があるが、近年では本市のチーム学習等により主体性や自主性を育む取組も進んでいる。個性も大切にされているようだ。変化の激しいこれからの時代を生きる世代には重要なことだろう。一方で、授業を受ける側が少し自由過ぎないかと思うこともある。

自由が欲しくてたまらなかつた私の中学時代だが、厳しさの中で社会に出るための準備として、規律や規範、礼節を身に付けていたのかもしれない。



子供たちはいずれ社会へ羽ばたき、他者と関わりながら生きていく。そのときのためにさまざま「人間力」を身に付けてほしいと願うとともに、私たち大人には、愛情をもって支援し育てていく責任があると、気が引き締まる思いだ。

(たぐち ちよ)



令和8年3月1日

# 3月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想…………… 1  
岡崎市教育委員会  
委員 田口 千代 氏
- この人に聞く…………… 2  
洋菓子職人 石川 和雅 氏
- 羅針盤…………… 2  
保健指導員 鈴木 滋子
- ふれあい…………… 3  
連尺小学校  
教諭 杉浦加枝子
- 特集…………… 4  
1年のあゆみ
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8  
連尺放送局開局  
(昭和52年)
- この本を…………… 8



# 「おいしい」を諦めない

洋菓子職人

石川 和雅 氏

シヨーケースには、彩り豊かなケーキが並んでいる。これら全てはグルテンフリーの商品である。石川氏が小麦アレルギーを抱えながらも、新しいスイーツの世界を切り拓く、その挑戦にある思いを伺った。

—洋菓子店を構えるまでの道のりを教えてください—

幼いころから食えることが好きで、料理や調理に携わる仕事に就く夢を抱いていました。お菓子作りの専門学校では、材料の配合や製法によっていろいろな洋菓子に生まれ変わることを学び、理系に近い感覚がおもしろくて好きでした。また作る人によっても味の違いが出ます。こうした洋菓子づくりの奥深さに魅了

され、夢を叶えたいという気持ちが高まりました。そして、岡崎市内の洋菓子店で数年間経験を積んだ後、さらなる学びを求めて渡仏しました。フランスでは、洋菓子作りの技術だけでなく、スイーツがどのように生まれたのか、その背景を深掘りしました。さらに、日本とフランスのスイーツ作りにおける感性の違いも学びました。昔からいつかは自分の店を開きたいという思いが強かったため、帰国した翌年に現在の店を構える運びとなりました。

—小麦アレルギーという逆境をどのように乗り越えましたか—

修行時代から小麦アレルギーの症状が出ていましたが、だましまし続けていました。ある日突然症状が悪化して目の前が真っ白になり、音も聞こえなくなりました。命に関わることで、もうだめかと思いました。症状が悪化すると食べられるものが限りなく少なくなることを実感しました。しかし、主食であり大好きなパンを諦めたくありませんでした。「やらないで後悔するよりもやって後悔」という信念をエネルギーに変えました。まず、自分が食べられるアレルギーフリーのパンを二年間試行錯誤して作りました。

そのときにお菓子作り用の米粉と運命的な出会いをしました。パン作りの研究がケーキ作りにも転用できると思い、米粉を使いながら改良を

重ねました。それでもやはり、グルテンフリーにしたことで、小麦粉で作る味と同等にする、そして何より自分が納得できる味にすることは難しいと感じました。さまざまな特徴がある洋菓子に適した米粉を探すことやでんぷんの配合を研究して、小麦で作るケーキの味に追いつくように探究しました。このことには渡仏時代に学んだ知識と経験が生きました。高い生産性を維持するために、配合を数値化し、安定的においしくて納得できるスイーツを提供する仕組みを整えました。小麦アレルギーだから洋菓子作りを諦めるという考えはなく、作ることが好きという思いが原動力となっています。

—今後の展望を教えてください—

たくさんの方にグルテンフリーのスイーツがあることを知っていただきたいです。そして、スイーツを口にして喜んでもらえる洋菓子店であり続けたいです。また、この店に来ることで、お客様はグルテンフリーの商品が手に入ります。食材に対する不安等を解決できるようにしていきたいと思っています。これからも挑戦を続け、社会貢献につなげていきたいと思っています。



氏名 いしかわ かずまさ  
生年月日 昭和五十二年三月十九日  
住所 岡崎市岩津町



# 「分かったからできる、やってみる」を目指した保健教育に

保健指導員 鈴木 滋子

人生百年時代、多様で複雑な健康課題に対応するために、自分の健康を自分で管理し、改善していく力の育成が求められている。A教諭は、この保健教育の核となる課題と向き合う単元を構想した。自分の生活習慣を振り返る活動を通して、生活習慣病を予防する、現実的で持続可能な生活改善の方法を見出すことを目標としたのである。

「分かってはいるけれど、なかなかできないよね。」

と、Bさんはつぶやいた。中学生の本音である。生活改善を妨げる要因を伝え合い、それがあってもなお生活習慣を改善できる仕組みや方法を探る。多くのチームで、話題はスマホやゲームをいかにやめるかになっていった。「時間を決める」「Wi-Fiを切る」「スマホを見えないところにしちゃう」などの案が出るものの、



## 心のバトン練習

連尺小学校

教諭 杉浦加枝子

五月。保健室登校をする児童の居場所として多目的教室を活用することになり、私はその担当となった。

Aさんは、読書をしたり、この教室を利用して他の児童と会話をしたりして過ごしていた。Aさんとの関係を早く築きたいと思い、積極的に声をかけた。しかし、Aさんからの返事はなかった。接し方に困ったが、心の扉を開いてくれる存在になりたいと考え、毎朝、教室に入るときには必ず「おはよう。元気」と明るく声をかけるように心掛けた。返事はなかったが、挨拶の後、私は昨日の出来事などを話した。

二週間ほど毎日挨拶を続けたある日、いつも通り「おはよう」と挨拶をすると、私の方を向いてうなずいてくれた。この視線とうなずきによ

る挨拶が、どれほどうれしく感じたことか。そして、Aさんはこの日から少しずつ、自分のことを話してくれるようになった。給食が苦手なこと、話し合いで意見を聞かれても答えられないことなど。その度に、「そうなんだね」とうなずきながら、Aさんの思いを受け止めた。

運動会の練習が始まったころ、「去年のリレーはバトンパスが上手くいかず、みんなに迷惑をかけた。」と話してくれた。ずっと心の奥にしまっていた思いを知り、「二人で練習するのはどう」と提案した。Aさんは、目を丸くしてうなずいた。

次の日から、二人だけの秘密の「十分間練習」が始まった。最初は、室内でバトンの受け取り方、持ち方、渡し方を練習した。

「えっ、左手で渡すの。右手で受け取るの。」

「右手から左手に持ち替えるとき、そんな手の動き方するの。難しいよ。」

そんな不安を表すAさんに対して一つ一つ説明をした。秘密練習の成果もあってか、Aさんは学級での練習にも参加するようになった。

ただ、学級での練習後、困った表情で戻って来ることがあった。理由を聞くと、バトンを受け取るときにテイクオーバーゾーンから出そうになったこと、渡すときに相手の手に

渡しにくかったことなどを教えてくれた。私は、Aさんの前後を走る友達の様子を聞き、その子をイメージして練習を続けることにした。

「Bさんはゆっくりだから、早く走り始めるとオーバーしてしまうよ。だから、これぐらいかな。」

と声をかける。Aさんは「そんなに近く」と言いながら、繰り返しバトンを受ける練習をした。上手になることが目標ではなく、Aさんの不安が少しでもなくなればよいという思いで練習を積み重ねていった。だから、バトンを落としたときも、スムーズにパスができたときも、常に会話をし、互いに笑いながら「十分間練習」に取り組んだ。

運動会当日、学級の中で一生懸命走るAさんはとても輝いていた。今も私に視線を向け、うなずく挨拶は変わらない。しかし、今はそれだけでいいと思えるようになった。なぜなら今は、Aさんの心のこもった挨拶だと分かるからだ。



これらのことは続かなかったという経験も同時に語られていた。そこで、A教諭は、「決めて三日で終わらないようにするために、どうすればよいか。」と、問いかけた。子供たちは深い思考の時間に入った。

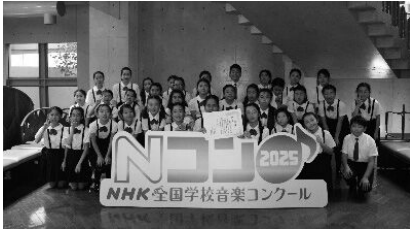
スマホを親に預ければよいと言うチームには、A教諭は習慣付けるためにどうすればよいかを問いかけた。すると、Cさんは、「親に預けるのではなく、今のうちからスマホの制限機能を使って自分でやる」と言う。続けてDさんは「手元にあるとつい触ってしまうから、キツチンとかに置いておけばよい」と具体的かつ継続可能な改善方法を提案した。将来の自分自身の健康を見据え、誰かにやってもらうのではなく、自分の力で「やってみる」。自分の健康を自分で管理し、改善していこうとする姿がそこにあった。

学校における保健教育は、病気になるってから行う保健指導とは違い、自分で健康について深く考え、「分かったからできる、やってみる」と試行錯誤しながら身に付けていく学びである。「今」の保健教育によって生涯の健康がつけられる。仲間との本音のやり取りから心が動き、行動につながる保健教育は心も体も健康であり続けようとする力となる。





▲第14回全国中学校駅伝大会 女子の部 10位 竜南中



▲第92回NHK全国学校音楽コンクール 東海北陸ブロックコンクール 小学校の部 銀賞 三島小



▲第25回全国中学生創造ものづくり教育フェア 制御部門 審査員特別賞 福岡中



▲第47回東海中学校総合体育大会 ソフトテニス大会男子団体の部 出場 河合中

8・21	第92回NHK全国学校音楽コンクール愛知県コンクール 小学校の部	女子800m	梅園小	金賞	三島小
8・17	第52回全日本中学校陸上競技選手権大会(8・20)	男子3000m	常磐中	4位	福岡中
8・17	第65回全日本中学校水泳競技大会(8・19)	男子3m飛板飛込	六ツ美中	6位	六ツ美中
8・7	2025年度愛知県小学生バンドフェスティバル	2025年度愛知県小学生バンドフェスティバル	竜美丘小	4位	竜美丘小
	第69回全日本中学校駅伝大会	男子の部	福岡中	10位	福岡中
	第44回愛知県中学生バレーボール新人大会	女子の部	福岡中	10位	福岡中
	第59回全国野生生物保護活動発表大会	日本鳥類保護連盟会長賞	生平小	3位	岡崎WEST
	第66回小学校作文コンクール	文部科学大臣賞	小豆坂小	増水	奨
	第33回全国中学校駅伝大会	男子の部	福岡中	19位	福岡中
	女子の部	福岡中	10位	福岡中	坂井 俊太
	区間賞	女子 第3区	竜南中	安藤 美琴	
	2学期終業式	岡崎教員研修会(四季の会・冬)	総合学習センター及びオンライン開催		
	3学期始業式	岡崎教員研修会(四季の会・夏)	総合学習センター及びオンライン開催		
	第60回岡崎市小学校読書感想文・読書感想画表彰式	令和7年度(こども音楽コンクール)	小学校重唱部門	2位	山中小
	第25回全国中学生創造ものづくり教育フェア	創造アイデアロボットコンテスト	審査員特別賞	福岡中	成瀬 柑那
	制御部門	審査員特別賞	福岡中	飯島章之亮	西野 蓮
	第75回全国小・中学校作文コンクール	文部科学大臣賞	竜海中	7位	福岡中
	中学校卒業式	小学校卒業式	3学期修了式		
	3学期修了式				



### ●ハートピアだより

#### ハートピアの教育相談

室長 小川真奈美

ハートピアでは長期欠席児童生徒の受け入れだけでなく、その保護者に対する教育相談も行っている。保護者への相談活動が子供の学校復帰につながった例を紹介する。

「担任の先生が苦手」という理由で、Aは通所するようになった。同時に母親の教育相談も始まった。母親としては、一人っ子で大切に育ててきたAの現状を受け入れられなかったのだろう。母親の思いをただ傾聴するだけであったが、可能な限り相談の機会をもった。その後、Aが毎日通所し距離を置けたこともあって、母親は少しずつ元気を取り戻していった。

十月にAの学校で宿泊行事



があつた。校内教育支援センター担当のB先生に声を掛け

てもらい、本人の意思で参加を決めた。しかしその日が近づくと、Aの不安は膨らんでいった。ストレスから母子関係がぎくしゃくし、再び母親から相談依頼があつた。

その場で校長先生に連絡したところ、B先生も同席して二人に会い、対応策を提案してくださいだった。そのおかげでAはクラスの仲間と一緒にすべての活動をやり遂げることができた。両親はAの頑張りを認め、家族三人でちよつとしたお祝いをしたそうだ。両親の温かさに触れ、そこでAは

初めて学校に行けなくなった

本当の理由を口にした。「勉強が分からない。授業がつらい」と。心の内を吐き出して安心したのか、現在、Aは校内教育支援センターに主軸を置き、いくつかの授業を教室で受けている。

子供や保護者の不安を受け止め、必要ならば仲介役となつて、その思いや要望を学校に伝える。そういった相談活動が、子供の安心につながると願いたい。

### ●プレクラスだより

#### 心が通い合うとき

副室長 佐藤 孝子

プレクラスでは日々の学習指導を通して、できた喜びを共感することを大切にしている。また言語、習慣の違いを理解し、文化の壁、心の壁を少しずつ低くしていく場でもある。

今年度、プレクラスには、アフリカからの児童生徒が加わった。母語で直接話せない子供たちには、特に心の拠り所となる場が必要だ。



入級初日のAには、イスラム教の祈りの時間を任せた。身体の清めを含めて三十分かった。これでは他の教育活動に影響が出てしまう。翻訳アプリをフル活用する日が続いた。彼との話し合いの末、祈りの時間について十五分に短縮することができた。彼は、誇りに思っている母国の話を、地図アプリを見せながら満面の笑顔で話す。私は、我が家にあつた彼の国の旅行本や写真を見せた。その国に関する展覧会に行き、歴史と文化の素晴らしさに感動してきたことを伝えた。「先生もいつか行けるといいね」と、彼との会話が弾んだ。

数日後、他国の子との誤解から生じた、いさかいが起きた。やんわりと諭そうと試みるのだが、誤訳で通じないこともあつた。それでも、私と子供たちそれぞれと、信頼関係ができてきたことで、いさかいの原因となつた説明も素直に聞き入れることができた。教師と子供の信頼関係があれば、子供同士の心の懸け橋にもなることができる。その後、相手の子とは仲良しの友達になり、明るくユニークな彼は、プレクラスの人気者となつた。

言語と習慣は異なつていても、温かい心はどの国の子どもと同じである。お互いの考えが合った子供たちは、プレクラスを笑顔で卒業していく。そんな笑顔がずっと続いていくよう心から願っている。



●教育最新情報

◆初任者研修閉講式

令和八年二月十八日(水)、小学校初任者、中学校初任者、新規採用養護教諭、新規採用栄養教諭、新規採用事務職員が総合学習センター多目的ホールにて一堂に会し、令和七年度初任者研修閉講式が行われた。本年度の岡崎市小学校新規採用教員は、小学校六四名、中学校三五名、養護教諭六名、栄養教諭一名、事務職員一名の計一〇七名であり、一人も欠けることなく、ともに過ごしてきたこの一年の日々を振り返った。



小学校初任者、中学校初任者は、継続的に行われる校内研修に加え、全体の初任者研修として講義だけではなく、歌唱指導やICTを活用した授業改善の方法、キャンプ

ファイヤーなどの野外活動や愛知教育大学附属特別支援学校における実習、市内研究発表への参観等、この一年で十回もの研修を受けた。

初任者代表者として挨拶をした六ツ美北部小学校の小幡莉子教諭は、この一年を子供たちと共に成長できた貴重な期間だったと振り返るとともに、この日々を支えてくださった多くの先輩教師や同期の仲間への感謝の思いと今後の決意を述べた。

◆小学新一年生へ通学帽子の寄贈(株式会社ジェイテクト)

令和八年二月十日(火)、株式会社ジェイテクトから男子バレーボールチーム「ジェイテクトSTINGS愛知」のロゴの入った通学帽子三二〇〇個が寄贈された。この通学帽子は令和八年度に小学校に入学する新一年生の全員に配られる。この通学帽子は、子供たちの安全な登下校を

守るために、鮮やかな黄色に加え、後頭部に反射テープが貼られ、視認性が高められている。

◆ジュニア家康公検定

令和八年二月二十八日(土)にせきれいホールにて、第四回ジュニア家康公検定表彰式が行われた。令和八年一月十六日(金)にジュニア家康公検定を受験した岡崎市や幸田町の小学校六年生三五四四人の中から、成績優秀な受検者が

参列し、表彰状等が授与された。最高得点となる九八点だった児童二人には「家康賞」が、七五点以上だった児童一六九人には「竹千代賞」が贈られた。公益財団法人徳川記念財団理事長の徳川家広氏の講演「家康公の少年時代」が行われ、参加した子供たちは家康公についてさらに学ぶ機会となった。

●表彰

◆子ども音楽コンクール

○小学校重唱部門

- 2位 井戸田穂成実・小川 澄
- 成瀬 柑那・鈴木 琴音

○小学校合唱部門  
出場

◆第25回全国中学生創造ものづくり教育フェア 創造アイデアロボットコンテスト

- 制御部門 福岡中
- 審査員特別賞 福岡中
- 西郡 蓮・三浦 弘輔
- 飯島章之亮
- 7位 福岡中
- 大石 新・小坂 陵介
- 長谷部裕來

◆愛知県アンサンブルコンテスト県大会

- 中学生の部
- ・金管八重奏
- 金賞 岡崎WEST E
- 太田みのり・木戸 颯彩
- 中西 凜・鈴木 来実
- 米津 双葉・縄 一花
- 左右田晴加・矢野 圭亮
- ・打楽器三重奏
- 金賞 岡崎WEST S
- 澤田 朱里・稲石 莉乃
- 石内 絵麻
- ・木管八重奏
- 金賞 岡崎WEST M
- 西別當音歌・荒川 陽香
- 富永 ゆい・三橋 柚奈
- 角谷 鷺・竹中 乃彩
- 羽田野紗世・中村 伊吹

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談(SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	



・カ  
ツ  
ト  
竜  
海  
中  
太  
田  
真  
喜

## 連尺放送局開局 (昭和52年)

写真提供：連尺小学校

写真は、昭和五十二年、開校百周年記念事業で完備された放送設備を活用し、児童が校内テレビ放送を行っている様子である。

同年秋には、愛知県学校視聴覚教育研究大会が同校で開催され、放送を生かした、学習の在り方について熱心に協議された。現在も、委員会による校内放送が行われ、児童がゲストとして出演したり、事前に撮影したインタビュー映像を放送したりするなど、工夫を凝らして取り組んでいる。

こうした視聴覚機器を使った教育は、タブレット端末などのICT機器を活用した教育にも引き継がれ、子供の思考の広がりや主体的な学びに寄与している。



東南アジアから渡ってくるツバメを見かけると春の訪れを感じる。ツバメはスズメより体長は大きいが軽く、単三電池一つ程度の重さしかない。その体で四千キロもの距離を渡るとは、目を見張るものがある。

季節や自然の営みに興味をもち、調べることで新たな知識を得て、物事の見方がさらに広がる。

# と ホ ツ

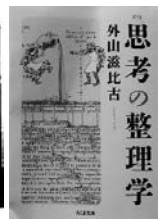
# 弥生



▲卒業生 万歳 (生平小)

本音が言える関係性を一朝一夕で築くことは、難しい。教師がありのままの自分を粘り強く伝えることで、子供は自分のことを話すようになる。年度が替わり、私たちはまた新たな人間関係を築いていく。子供の言葉の否定は、子供の心を閉ざしてしまう。まずは子供の話に耳を傾け、受容することから始めたい。

作り手の笑顔からは想像できない壮絶な経験を乗り越えたお話を伺えた。諦めないからこそ、到達できることや新たに発見できることがある。挑戦し続ける中で、確かな力が育っていくのだ。壁にぶつかるとは次への成長へのきっかけとなる。子供たちにも結果だけではなく、プロセスを大切にしてほしいと願う。



\* 思考の整理学  
筑摩書房

外山滋比古  
¥630

### 心に残った一文

頭をよく働かせるには、この“忘れる”ことがきわめて大切である。

人間の頭は、倉庫の役割だけでなく、新しいことを考え出す知的工場でなくてはならない。そのためには整理のための忘却が大切であると著者は言う。休み時間、子供が走り回ったり、飛び回ったりし「さっきの授業は何をやったっけ」となるのは、頭の中が整理され、考える力や記憶力が活発になった証拠である。なるほど、休み時間を終えて教室に戻ってくる子供のすっきりした表情は、リフレッシュとともに思考が整理された状態なのだ。

我々教師は、整理された子供の脳に良質なインプットを仕掛けたり、学びを深める問いや体験を積み重ねたりすることで、子供の能力をさらに伸ばしていきたい。

\* こうやって、考える。  
PHP 研究所

外山滋比古  
¥680

\* わたしが正義について語るなら  
ポプラ社

やなせたかし  
¥890

\* 43回の殺意  
新潮社

石井 光太  
¥670

宮崎小学校 都筑 香理